



I want to be happy
all the time



CHALLENGE!
CHALLENGE!



24歳
女子が

坊主になった理由

坊主になった女子はこんなやつ

普通です。

普通とは何かということはおいておいて、
おそらく、私みたいな友達はきつといると思います。

どこにでもいる
ちょっと女子力低めで
おおざっぱで
わりと明るい性格です。

あまり信じてもらえませんが、
根は人見知りで
周りの目を気にします。

甘いものが好きで
見かけによらずお菓子作りも好き
服とかファッションも好きで
安くてかわいいものが好き
スポーツするのも好きで
動物も好き

女の子ときゃぴきゃぴ恋バナも好き。

こんな女子です。

何も変わったことはないと思います。

多くの人が当てはまる項目ばかりです。

でも、そんな私が24歳で坊主になってしまいました。

私の感じたことをつづっていきます。

「なるほど」でもいいし
「そういえば・・・」でもいいし
「え？は？何言っちゃってんの？」でもいい

何かの小さな気づきになればうれしいです ^^

「将来の夢は何？」

「将来の夢は何？」

小さい頃、だいたい中学生くらいまでかな。

よく大人に聞かれた。

親戚の家に行くたびに、そう尋ねられた記憶がある。

「将来の夢」

イコール

「将来つきたい職業」

という意味合いで使われていたように思う。

幼稚園の一番最初は

「警察官」

自信満々に答えた。

大人には「駐車違反もおまけしてあげる！」と子供らしい発言もしていた。

そして、

幼稚園後半から小学校にかけてが

「スチュワーデス」

今で言うキャビンアテンダント

自信満々に答えてた。

幼稚園の卒業アルバムにもしっかり載っている。

このころから英語もなっていたからか、そんな夢を抱いていた。

常に身長が低かった私。

背の順で、一番前がほとんど。

号令の「前習え」は腰に手をあてるパターン。

父と母は、運動会でも写真が撮りやすいと笑っていた。

キャビンアテンダントは、身長制限があるということに目を向けた結果、背がたりなくて無理なのでは、と思う私。

キャビンアテンダントは綺麗でなければならない、ということに目を向けた結果、自分の容姿に自信がなかったので、無理なのでは、と思う私。

早い段階でこの夢は諦めた。

何を思ったのか、さらに難関。

小学校後半は

「アナウンサー」

そう思っていたけど、あまり大きい声では言えなかった。

子どもながらに、おそらく無理だと思いつつ、憧れはあった。

大きな声では言えなかったけど

一応「夢」はあった。

中学になると夢は答えられなかった。

通訳にはあこがれていたけど、現実的に会社員とかになるんだらうな、とどこかで思っていた。

この頃はもう

自信満々に答えられる夢はもうなかった。

「将来の夢」

イコール

「将来つきたい職業」

今思うと、そもそもこの方程式に違和感。

夢＝職業???